A CASE OF COMPOUND COMPOSITE ODONTOMA

By

S. SAKAI & K. FUJII

*From the Department of Otorhinolaryngology Osaka University Medical School
(Director: Prof. T. Hasegawa)*

- 1) A case of compound composite odontoma originating in the right maxillary bone of a 15 year-old girl was reported.
- 2) The tumor was surgically removed. Postoperative course has been favorable.
- 3) The tumor consisted of at least 700 independent teeth, several of them being fused.

Compound Composite Odontoma 症例

大阪大学医学部耳鼻咽喉科教室（主任：長谷川高敏教授）

酒 井 俊 一・藤 井 興 年
サカ イ シュン イチ フジ イ コウ ネン

I 緒 言

Odontoma は odontogenic の比較的稀な顎部の良性腫瘍で 1863 年 Broca により Odontoma と名付けられた。その中で分離した未分化の小歯牙、あるいは不規則な歯牙組織の塊りがいくつか集つてできている Compound Odontoma は通常下顎に生じいろいろな形や大きさをとり、時には単なる石灰化した塊りであることもある。Broca はこの型を “Traite des Tumeurs” と記録している。Compound Composite Odontoma というのは規定数外の 1 本以上の Denticle や硬歯牙組織の塊りなる腫瘍で、多くは下顎に生ずるものであるが、最近著者等は多数の Denticle をもつ巨大な Compound Composite Odontoma が上顎洞を埋めつくしていた 1 例を経験したので報告する。

II 症 例

患者； 島○安○子 ♀ 15 才

主訴； 右頬部右側硬口蓋の無痛性腫脹

初診； 昭和 35 年 1 月 28 日

既往歴； 特記すべきことはない。

現病歴； 約 10 カ月前の学校検診で右上歯齦部の腫脹を指摘されたが、無痛性であるのでそのまま放置していた。今年春の学校検診で再び指摘されて翌日当科を受診した。

家族歴； 特記すべきことはない。

初診時所見； 右上第 1 第 2 大白歯は見当らず、その部分は腫瘍状に硬く隆起し、中央部に潰瘍の形成が認められた。圧痛自発痛は共に無い。右頬部はやゝ腫脹するも表面の皮膚に異常は認められなかつた。頸部のリンパ節は触知できなかつた。

歯牙

T	E	4	3	2	1	C						
						1	2	3	4	5	6	7
7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	X 7

T；腫瘍 C；齶蝕 X；喪失歯

レ線所見； 右上顎洞に相当する場所に多数の Denticle に似た像が認められた。附近の骨破壊像は著明でない。なお大白歯と思われる像が眼窩下方に埋没しているのが認められた（図 1, 2 矢印）。

入院後検査成績； 血液像、血圧、E.C.G., 肝機能検査、尿便に著変は認められなかつた。

歯牙発生状況； 学校検診表によると右上第 2 小臼歯は乳歯のままで、第 1 大白歯の萌出はおくれ、通常 6 才半頃で生え代るものが 10 才になつて生えており、右上第 2 大白歯は萌出していない。

次に学校検診表を示す。

6 才	C ¹											
	E	D	C	B	X		X	B	C	D	E	6
	6	E	D	C	B	1	1	B	C	D	E	6

図1 正面像

図2 側面像

	$\begin{matrix} C_1 & C^3 \\ 6 & E \end{matrix}$	4	X	2	1		1	2	3	4	5	$\begin{matrix} C^3 \\ 6 \end{matrix}$		
11才	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	
	$\begin{matrix} C_2 \\ C_3 \\ 6 \end{matrix}$	E	4	3	2	1						$\begin{matrix} C_1 \\ C_3 \\ 6 \end{matrix}$	7	
12才	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7
	$\begin{matrix} C_3 \\ 6 \end{matrix}$	E	4	3	2	1						$\begin{matrix} C_3 \\ 6 \end{matrix}$	7	
13才	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7
	$\begin{matrix} C_3 \\ 6 \end{matrix}$	E	4	3	2	1						$\begin{matrix} C_3 \\ 6 \end{matrix}$	7	
14才	?	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7
	$\begin{matrix} C_4 \\ ? \end{matrix}$	E	4	3	2	1						$\begin{matrix} C_4 \\ 6 \end{matrix}$	7	
	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7

X; 喪失歯 C₁~4; 齶蝕

治療; 気管内閉鎖循環麻酔下に口腔前庭より上顎洞に達した。骨前壁はきわめて薄くその内部には無数の粟粒大から豆粒大の歯と同様な固さをもつ小骨片が少量の結合織にとり囲まれて存在していた。腫瘍の境界は比較的明瞭な所もあり、そうでない所もあったが、肉眼的にできる限り全部剔出した。出血量約 400cc 1時間40分の手術であつた。

剔出標本; 図3は剔出した腫瘍内容を濃苛性曹達液につけて骨片以外を溶かし、その中で歯組織と思われる外観、色、光沢、固さをもつものを選び出したもので、単独の Denticle とみられるもの671ヶ、他に Denticle が集つて一塊をなしているものが27ヶみられ、なお手術中ガーゼその他の器具に附着したり吸引器に吸い込まれたりして見失つたもの約50ヶはあると思われる。

病理組織標本; 扁平な粘膜上皮に囲まれたエオジンで赤く染まる骨様組織がみられた。周囲に線維の増殖もみられた。

III 総括ならびに考按

Odontoma というのは下顎上顎口腔に生ずる良性の歯原腫瘍で通常下顎に多く、1ないし数本の歯牙の欠如を伴う。7~26才の比較的若い人に多い。

American Academy of Oral Pathology の分類によると次の5つに分けられている。

Odontoma	{	geminated Odontoma
		composite Odontoma
		composite Odontoma
		dilated Odontoma
		cystic Odontoma

Britisch Dental Association の分類では

1. Epithelial Odontoma
2. Composite Odontoma

7才	$\begin{matrix} E & D & C & X & 1 \\ 6 & E & D & C & 2 & 1 \end{matrix}$	$\begin{matrix} 1 & B & C & D & E & 6 \\ 1 & 2 & X & D & E & 6 \end{matrix}$
8才	$\begin{matrix} E & D & C & 2 & 1 \\ 6 & E & D & C & 2 & 1 \end{matrix}$	$\begin{matrix} 1 & 2 & C & D & E & C_1 \\ 1 & 2 & X & D & E & 6 \\ & & & & & C_1 \end{matrix}$
9才	$\begin{matrix} C_1 \\ E & D & C & 2 & 1 \\ E & D & 3 & 2 & 1 \\ C_1 \end{matrix}$	$\begin{matrix} 1 & 2 & C & D & E & C_2 \\ 1 & 2 & 3 & 4 & E & 6 \\ & & & & & C_2 \end{matrix}$
10才	$\begin{matrix} C_1 \\ 6 & E & 4 & C & 2 & 1 \\ 6 & E & 4 & 3 & 2 & 1 \\ C_1 \end{matrix}$	$\begin{matrix} 1 & 2 & 3 & 4 & C_2 & C_3 \\ 1 & 2 & 3 & 4 & E & 6 \\ & & & & & C_1 & C_1 \end{matrix}$

図 3 剔 出 標 本

3. Connective tissue Odontoma

の三つに分けている²⁾。また他に hard Odontoma, soft Odontoma のような分け方もある。

Compound Composite Odontoma というのは1本以上の一部または完全に形成された歯 (Denticle) や、硬歯牙組織の塊よりなり、線維性の膜でとり囲まれているもので、さらに三つの型に分けている人もある³⁾。

- 1) a Denticular Type
- 2) a Particulate Type
- 3) a Denticulo-Particulate Type

Compound Composite Odontoma についての Hitchin, A.D., and Mason D.K. の報告³⁾によると

性; ♂ 38 例, ♀ 23 例 (61 例中)

年齢; 21.46 才

部位; 上顎 44, 下顎 24 (下前 17, 上前 37, 下小白歯 4, 上小白歯 7, 下大白歯 3, 上大白歯 1)

Denticle や Particles の数; 2~500

となつている。極端なものでは 1951 年 Herrmann の報告したのによるとレ線像で数千の歯がみられたというのものもある⁴⁾。

本症例は右上顎洞を埋めつくす位の大きさと内容の Denticle の数の多いことではきわめて珍らしいものと

思われる。

要 約

1) 15 才女子右上顎に発生した Compound Composite Odontoma の症例について報告した。

2) 手術的に腫瘍を剔出し、その後の経過は良好である。

3) 腫瘍は少なくとも 700 個以上の独立した歯牙からなり、その内数個の歯牙が融合した如きものもあつた。

引用 文 献

- 1) Thoma and Goldman: Oral Pathology 5 Edition, 1960.
- 2) Sam, E. Roberts. Frank. S. Forman. Follicular Odontoma of the Maxillary Sinus, Annals of O.R.L. 55: 175~178, 1946.
- 3) Hitchin, A.D. and Mason, D.K.: Four Cases of Compound Composite Odontomes, Brit. Dent. J. 104: 269, 1958.
- 4) Kurt H. Thoma: Oral Surgery 2nd Edition, Vol. II, 1952.

本論文要旨は第 103 回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会において報告した。

稿を終るに臨み恩師長谷川高敏教授の御校閲を深謝します 又本学歯学部寺崎太郎教授の御指導を深謝します。

(原稿到着=昭和 36, 10, 9 日)